

## 標準委員会 第20回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2013年5月29日(水) 10:00~11:40

2. 場 所 5東洋海事ビル 会議室A+B

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 岡本(部会長), 吉田(幹事), 萩原(副部会長), 石川, 市川, 岩崎(途中退出), 上野, 浦上, 笠原, 北島, 越塚, 坂本, 宿谷, 田中, 西田, 沼田, 日比, 松本, 宮坂(19名)

(代理委員) 岡野代理(日本原子力研究開発機構/堺委員)(1名)

(欠席委員) 山口(1名)

(説明者) [廃止措置分科会]立花, 初岡, 齋藤(3名)

(傍聴者) 新崎((株)原子力エンジニアリング), 中村((財)エネルギー総合工学研究所), 湊(日立GEニュークリア・エナジー(株))(3名)

(事務局) 室岡, 新井, 漆原(3名)

4. 配付資料

ATC20-0 議事次第

ATC20-1 前回議事録(案)

ATC20-2 人事について

ATC20-3-1 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」書面投票結果

ATC20-3-2 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」標準委員会指摘事項管理表

ATC20-3-3 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」新旧対比表

ATC20-3-4 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」

ATC20-3-5 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」書面投票(2回目)の実施について

ATC20-3-6 「発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方:20XX(案)」反対意見解消話し合い議事録

ATC20-4-1 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:201X(案)」書面投票結果

ATC20-4-2 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:201X(案)」標準委員会指摘事項管理表

ATC20-4-3 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:201X(案)」新旧対比表

ATC20-4-4 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:201X(案)」

ATC20-4-5 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:201X(案)」標準委員会書面投票を受けたご説明 議事録(案)

ATC20-5 資料なし

ATC20-6 第2回シミュレーションの信頼性分科会議事録案

ATC20-7 分科会の活動状況について

参考資料

ATC20-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿

ATC20-参考2 標準委員会の活動状況

## 5. 議事内容

事務局から、開始時、委員21名中、代理委員を含めて20名が出席しており、成立に必要な定足数（14名以上）を満足している旨報告された。

### (1) 前回議事録（案）の確認（ATC20-1）

事務局から、前回議事録（案）について説明があり、前回議事録（案）は承認された。

### (2) 人事について

事務局から、資料ATC20-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

#### 1) 専門部会

委員の退任【報告事項】

なし

新委員の選任【決議事項】

なし

委員の再任

なし

#### 2) 分科会

委員の退任【報告事項】

廃止措置分科会

軍司 康義（原子燃料工業株式会社）

放射線遮蔽分科会

徳原 一実（富士電機株式会社）

委員の選任【承認事項】

廃止措置分科会

井上 義弘（三菱原子燃料株式会社）

放射線遮蔽分科会

中野 正明（富士電機株式会社）

審議の結果、分科会の2名の委員の選任が承認された。

### (3) 「発電用原子炉施設の廃止措置の耐震安全の考え方:20XX」標準委員会書面投票結果（ATC20-3-1, 3-2, 3-3, 3-4, 3-5, 3-6）

事務局から資料ATC20-3-1に基づき、2013年3月12日から2013年4月11日の期間で行われた標準委員会書面投票結果について説明があった。反対票があったため、投票結果は否決となったが、反対意見を投じた委員と分科会とで反対意見を解消するための話し合いの場を持ち(ATC20-3-6)分科会で対応案を作成。この対応により反対票は取り下げられた。コメント対応については廃止措置分科会の田中幹事、初岡委員より資料ATC20-3-2～4に基づいて説明があった。質疑・コメント等は下記のとおり。

Q. 本標準のタイトルに「考え方」をつけることについて、議論が必要。標準作成の手引きでは、「基本的考え方」というタイトルが許されている。実際に1件であるが「考え方」とした標準がある。この標準は廃止措置進捗に応じて耐震重要度が変化する考え方をまとめたものであり、「考え方」を付ける方がこの標準の内容を表していることから、このままとする。

このコメント対応の修正は編集上の修正とはいえ、標準委員会審議要領にのっとり、2回目の書面投票（専門部会および標準委員会）を実施することとなった（ATC20-3-5）。なお、専門部会および標準委員会の書面投票で修正案が可決された場合、公衆審査に移行することが承認されている。

(4) 「試験研究炉及び核燃料取扱施設等の廃止措置の計画:20XX」標準委員会書面投票結果  
(ATC20-4-1, 4-2, 4-3, 4-4, 4-5)

事務局から資料ATC20-4-1に基づき、2013年3月22日から2013年4月21日の期間で行われた標準委員会書面投票結果について説明があった。反対票があったため、投票結果は否決となったが、反対意見を投じた委員と分科会とで反対意見を解消するための話し合いの場を持ち(ATC20-4-5)、分科会で対応案を作成。この対応により反対票は取り下げられた。このコメント対応の修正は編集上の修正と判断され、修正版をもって可決となった。コメント対応については廃止措置分科会の田中幹事、立花委員、齋藤氏より資料ATC20-4-2～4に基づいて説明があった。質疑・コメント等は下記のとおり。

- Q. ATC20-4-2 コメント番号1の「エンドースが得られていない時点で、言い切って良いのか」への回答は、「民間基準の立場で、規定し、基本とする標準と考えている」という説明を、指摘事項対応表にも追記すること。「拝承」は削除すること。  
拝承、いただいたコメント通り修正する。

(5) 「線ビルドアップ係数」標準の修正途中経過報告（資料なし）

坂本委員（放射線遮蔽分科会主査）から、「線ビルドアップ係数」標準の修正の途中経過報告があった。標準書案では、鉄の密度として $7.86\text{g}/\text{cm}^3$ と $7.87$ の2種類の数値が使用されていることから、 $7.86$ に統一する。これは掲載許諾の手続き中に判明したもので、引用文献先での数値併用に起因している。また、ビルドアップ係数に対するフィッティング式パラメータの有効数字の桁数を少なくしたことにより、このパラメータを用いて算出したビルドアップ係数の誤差が数表中の最大誤差と異なることがある。そこで、数表に示されたパラメータを用いた場合の最大誤差等を評価し、数表に記載することにした。さらに、「線ビルドアップ係数」標準の英語版については、本年12月を目途に原稿を作成する、「遮蔽材料の標準組成」については検討体制を整えて着手する。質疑・コメント等は下記のとおり。

- Q1. フィッティングパラメータの有効数字を丸めたことによる誤差の見直しは、編集上の修正と考える【岡本部長】  
Q2. 事故時の線量評価に線ビルドアップ係数が用いられていることから、英語版の標準書を作成して公刊してほしい。【岡本部長】  
「線ビルドアップ係数」標準の修正案については、次回専門部会で報告・審議する予定。

(6) シミュレーションの信頼性分科会での検討内容報告（ATC20-6）

シミュレーションの信頼性分科会の笠原主査から、ATC20-6に基づき、シミュレーションの信頼性分科会での検討状況についての報告があった。第2回分科会では、標準及び解説（案）、分野別共通V&V計画の雛形（案）、ASMEV&V10.1の概要、及び今後の進め方について審議があった。続いて5月28日に開催された第3回分科会について口頭で報告があった。標準及び解説（案）については、内容を詳細化した改訂版の提示があり、ガイドの使用目的、適用範囲、記載内容等について議論があったこと、また、熱水力安定性を題材にV&V計画案の具体化の報告があり、今後他の分野のV&V計画の記載を委員に要請すること、また、7月25日に第4回会合を開催し、次回の部会で中間報告するとの予定が示された。質疑・コメント等は下記のとおり。

Q. ASMEのV&V国際会議に参加したところ、医療関係のV&V40の発表が多く活発であった。システム関係のV&V30の進捗はやや良くない。構造関係のV&V10や熱流動のV&V20は具体的適用に関する下位標準が続々出ている状況。

当分科会も可能な限り内容を固めて次回報告したい。

(6) 基盤・応用技術専門部会 分科会活動状況 (ATC20-7)

事務局から、ATC20-7に基づいて各分科会の活動状況が報告された。

6. その他

次回第21回基盤・応用技術専門部会は、9月12日(木)10時からとした。

以上